

氏 名	劉 陽洋
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第6038号
学位授与の日付	令和元年9月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Physical activity and incident dementia in older Japanese adults: The Okayama study (高齢者における運動頻度と認知症発生リスクとの関連: 岡山市後向きコホート研究)
論文審査委員	教授 山田了士 教授 阿部康二 准教授 黒住和彦

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究の目的は、岡山市の高齢者を対象として運動頻度と認知症発生リスクとの関連を明らかにすることである。51,477名を解析対象とし、7年間追跡した。基本健康診査票では、運動の有無や頻度などについて調査した。これらの者が要介護認定の申請を行った場合には、認知症に関する日常生活自立度判定基準による判定が行われ、認知症の有無について評価された。この研究における認知症の分析では、運動の他に、年齢、性別、疾病歴、健康状態、生活習慣などを潜在的交絡因子として加え、生存分析にて率比と95%信頼区間を推定した。男女別に算出した結果では、男性での多変量調整 HR (95% CI) は毎週 ≥ 2 回運動する群で 0.76 (0.70-0.84)、毎日運動する群で 0.82 (0.76-0.89)であった。女性での多変量調整 HR (95% CI) は毎週 ≥ 2 回運動する群で 0.81 (0.76-0.87)、毎日運動する群で 1.01 (0.95-1.07)であった。週に2回から毎日運動習慣がある人は、毎日運動する女性を除いて、認知症発生リスクが低い傾向にあることが明らかになった。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、岡山市の高齢者 51,477 人における基本健康審査票のデータを解析し、日々の運動習慣と認知症発症リスクについての関連を7年間の観察期間にわたって検討した後向きコホート研究である。運動習慣のない人に比べ、週2回以上運動をする男女および毎日運動する男性において認知症発症のリスクが小さくなることが示された。毎日運動する女性にはこのリスク低下が認められず、全体として用量依存的な関連は明らかでなかったものの、大規模の7年間にわたるデータの解析は貴重であり、統計処理やデザインも適切であった。以上、本研究は今後の日本人における認知症発症と運動習慣の関係についての更なる研究につながり、認知症予防対策のために重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。